

## ◆特集◆ 研究活動を支える図書館

これからの大学図書館における  
冊子体資料の保存と管理

●北米の事例から

村西明日香

## はじめに

高等教育と学術研究活動を支える学術情報基盤である大学図書館にとって、資料はその核となる重要な構成要素である。大学図書館は自身の大学の教育研究を支える資料を日々収集し、それらを長期にわたって保存・管理しようと努めるが、無限ではない物理的な資料の保存スペースをどのように確保し続けるかはすべての大学図書館にとっての共通の課題である。

2013年度の「学術情報基盤実態調査」によれば、大学図書館の管理運営等において解決すべき課題のうち経費・設備面について「資料収蔵スペース狭隘化の解消」を挙げている大学は18.7%であり、これは同カテゴリの中で最も多くの大学が課題として挙げた「外国雑誌・電子ジャーナル購入に係る経費の確保」(21.3%)に次ぐ数値である<sup>1)</sup>。

本稿では北米の大学図書館における冊子体資料の保存・管理手法(表1)について、事例を中心に紹介するとともに、日本の大学図書館への応用可能性について検討する。

## 1 単独書庫

増え続ける資料の所蔵スペースを確保するため

むらにし あすか：名古屋大学

キーワード：蔵書管理、共同保存、資料保存、シェアードプリント

表1 北米における冊子体資料の保存・管理手法

単独書庫	学内書庫	保存書庫 自動化書庫
	遠隔地書庫	保存書庫
共同書庫	集中型	デポジトリ リポジトリ
	分散型	

まず検討されるのは書架や書庫の増設であろう。一大学が自身の所蔵資料を保存・管理するために構築する書庫のことを、共同書庫との対比として「単独書庫」と表現する。

北米における単独書庫には、学内に設置される「学内書庫」とキャンパスから離れた場所に設置される「遠隔地書庫」とが見られる。

## 1. 学内書庫

学内書庫は利用頻度の低くなった資料を保存することを主な目的とする「保存書庫」と、即時の出納を可能にしつつ限られた保存スペースにより多くの資料を所蔵することを目的とする「自動化書庫」に大別される。

保存書庫には固定式書架や集密書架を館内あるいは館外の別の建物に増設する例と、より効率の良い所蔵を可能とする高密度書庫施設(high-density storage facility)を新築する例とが見られる。高密度書庫施設は次のような特徴を有する<sup>2)</sup>。

- 利用者が直接資料にアクセスすることは想定せず、大量の資料を効率的に所蔵するようデザインされている。伝統的な図書館の書架に比べ、

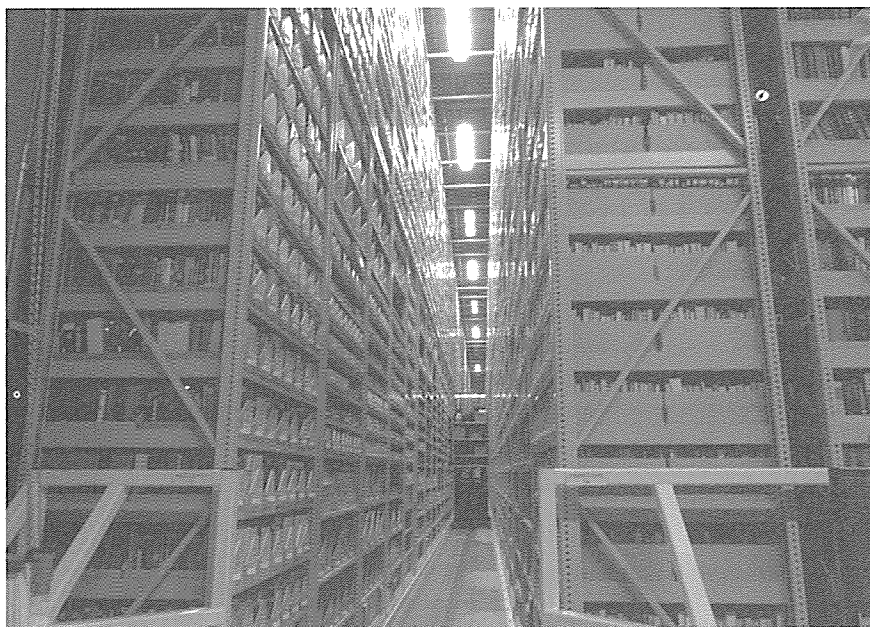


写真1 ハーバードモデルの書架

※2014年1月8日にReCAP(アメリカ合衆国ニュージャージー州)において筆者が撮影

同じ面積あたりに所蔵できる資料のキャパシティは15~20倍となる。

- 伝統的な図書館の書架からは分離し、遠隔地にあることが多い。
- 所蔵の密度を最大限にするため、請求番号ではなくサイズによって組織化されていることが多い。
- 資料保存に適した環境コントロール(温度華氏50度前後、湿度35%)を行っていることが多い。

さらに高密度書庫施設は、資料を保存するためのコストが開架書架で保存した場合と比較して低くなることが指摘されている。クーラント(Courant, Paul N.)らによれば、書庫の建設費、維持費、清掃費、光熱費、人件費、出納経費を考慮した冊子体資料1冊あたりの保存コストは、高密度書庫施設で保存した場合は年間平均0.86ドル、開架書架で保存した場合は4.26ドルとなる<sup>3)</sup>。

自動化書庫は高密度書庫施設の種類であるといえるが、図書館外や遠隔地ではなく図書館内に組み込まれる形で導入されることがほとんどである。ユタ大学では自動化書庫のコストを1冊あたり4ドル(ただし建物分を含まない)と説明して

いる<sup>4)</sup>。

#### 【事例】保存書庫(集密書架)

——スタンフォード大学

スタンフォード大学にはStanford Auxiliary Library(SAL)と呼ばれる書庫が三つあり、そのうちSAL1&2はキャンパス内にある<sup>5)</sup>。SAL1&2では集密書架が活用されており、分野を問わず利用頻度の低い資料が所蔵されている。書庫内の資料は来館利用が可能なほか、OPACからのリクエストによるキャンパス内の図書館への配送サービスも用意されている<sup>6)</sup>。

#### 【事例】保存書庫(高密度書庫)——カンザス大学

カンザス大学のLibrary Annexはキャンパスの西端に位置する、ハーバードモデルを採用した高密度書庫施設である<sup>7)</sup>。ハーバードモデルとは1986年にハーバード大学が運用を開始した書庫にならった高密度書庫施設であり、面積あたりに収納できる資料数が最大となるよう、資料をサイズごとに分類してボール紙製のトレイに入れ、そのトレイを高さ9メートルほどもある固定式書架

表2 北米における遠隔地書庫の事例

ウェストヴァージニア大学 Library Depository
オハイオ州立大学 Book Depository
ケース・ウェスタン・リザーブ大学 Retrospective Research Collections Center (RRCC)
カリフォルニア大学サンディエゴ校 Trade Street Storage Annex
スタンフォード大学 Stanford Auxiliary Library (SAL) 3, Newark
ケンタッキー大学 Storage
イェール大学 Library Shelving Facility
サウスカロライナ大学 Library Annex and Conservation Facility
ライス大学 Library Service Center
コーネル大学 Library Annex
ニューヨーク州立大学バッファロー校 Libraries Annex
ビンガムトン大学 Library Annex
デューク大学 Library Service Center
ヴァージニア工科大学 Storage Facility
フロリダ大学 Auxiliary Library Facility
ペンシルベニア州立大学 Annex
ペンシルベニア大学 Libraries Research Annex (LIBRA)
ハーバード大学 Harvard Depository
ジョンズホプキンス大学 Libraries Service Center
ブラウン大学 Library Collections Annex
議会図書館 High Density Storage Facility
ウェスタンオンタリオ大学 Storage

出典：参考文献10)、Table1 (p.12) および“Links to Shelving Facilities”. ReCAP. (オンライン), 入手先 (<http://recap.princeton.edu/contacts/otherfacilities.html>), (参照 2014-09-30) をもとに筆者が各大学の Web サイトを調査し収集。

(写真1) に収納する。トレイの出し入れは人が乗って運転するタイプのリフトを用いて行われる<sup>8)</sup>。この一連の処理はカンザス大学図書館の Web サイトにおいて動画で紹介されているので参照されたい<sup>9)</sup>。

カンザス大学では資料の保存スペース不足に対処するため、1993年から書庫の建設計画を開始した。10年後の2003年に建設が決定、その後図書館員と教員が共同で図書館に残す資料・書庫に移す資料について調査検討を行い、2006年に開館を迎えた。この書庫には160万冊が所蔵可能である。分野を問わず利用頻度の低い資料やオンライン資料に置き換わった冊子体資料、文書や手稿、さらには劣化資料も所蔵されている<sup>10)</sup>。

### 【事例】自動化書庫

——カリフォルニア州立大学ノースリッジ校<sup>9)</sup>

カリフォルニア州立大学ノースリッジ校

Oviatt Library 内にある Automated Storage and Retrieval System (ASRS) は、1992年に導入された北米で最初の自動化書庫である。自動化書庫内の資料の出納は、管理システムで制御されている書庫内に設置された小型クレーンによって行われる。自動化書庫はハーバードモデルよりも迅速な資料の出納が可能であるが、建設コストはハーバードモデルよりも高価になる<sup>12)</sup>。

Oviatt Library の自動化書庫は地下1階から1階部分にある<sup>13)</sup>。利用頻度が低くなった古い雑誌(利用の高い雑誌を除く1990年以前のもの)や図書が所蔵されている。利用者は希望する資料についてOPACを用いてリクエストを行い、貸出カウンターで受け取る。リクエストから受け取りまでにかかる時間は10分以下である。

## 2. 遠隔地書庫

単独書庫には学内ではなくキャンパスから少し

離れた場所に建てられる事例も多い。キャンパス内に書庫を建てられるような土地がないことや、あまり利用されない資料の置き場所としてよりも学生の活動のためにキャンパス内の土地を活用したいと考えられることなどがその理由である<sup>14)</sup>。表2に北米における遠隔地書庫の事例の一部を示す。

### 【事例】ライス大学

ライス大学のキャンパスから8 kmほど離れたところにあるLibrary Service Centerは、利用頻度の低い図書館資料を保存する遠隔地書庫である<sup>15)</sup>。2002年に建設が承認され、2003年に着工、2004年3月に開館した<sup>16)</sup>。175万冊が所蔵可能で、ハーバードモデルを採用している<sup>17)</sup>。

遠隔地書庫に移管する資料については選定基準がある<sup>18)</sup>。まず一般的な基準として、貸出統計などで示される利用者動向、必要な複本の数、旧版の需要の有無、物理的な状態、代替利用手段の有無などを考慮することが示されている。さらに、分野の特性に応じた判断が必要であるが、電子媒体と重複している雑誌や購読キャンセルを行った雑誌の冊子体、科学技術分野は20年以上前、社会科学分野は30年以上前、人文科学分野は40年以上前の雑誌の冊子体および過去6年間貸出のない単行書、再生機器のない視聴覚資料などが遠隔地書庫へ移管することがふさわしい資料とされている。なお移管する資料の選定はその分野の図書館員が行う。教員と共同で行う場合もある。

## 2 共同書庫

以上のように冊子体資料の保存スペースの確保は各大学が個別に行ってきたが、財政的な理由などから、複数の大学が共同で利用する書庫の建設が検討されるようになった<sup>19)</sup>。こうした共同書庫は、書庫に預けた資料の所有権が預けた大学にあり、書庫のスペースの共同利用にとどまる「デポジトリ型」と、各大学が書庫に預けた資料の所有権を放棄し、書庫内の資料を参加大学の共有財産として扱う「リポジトリ型」に分けられる<sup>20)</sup>。

さらに近年では、実態としての書庫を持たず参加大学内でどの資料をどの大学が保存するかを定め、保存の責任を担う資料を自身の大学の図書館や書庫で保存する“Virtual Storage”の取り組みも見られる<sup>21)</sup>。これにより参加大学は、保存の責任がない資料について必要に応じて廃棄の判断をすることが可能になる。

こうした共同での冊子体資料管理の取り組みはシェアードプリント(Shared Print)と呼ばれ、共同書庫を利用するタイプは集中型、共同書庫を持たず各大学で保存資料を分担するタイプは分散型と表現される<sup>22)</sup>。

### 1. 集中型

#### 【事例】デポジトリ型——WRLC<sup>23)</sup>

WRLC(Washington Research Library Consortium)はワシントンDC近郊9大学が加盟する非営利組織である。メリーランド州アップーマルボロにある本部には共同書庫が併設されている。書庫は二つあり合計300万冊が所蔵可能、さらに現在第三書庫が建設中であり、完成すれば合計で500万冊が所蔵可能となる。その建設費は、第一書庫については連邦政府教育省(Department of Education)からの寄付を受けたが、第二書庫、第三書庫については書庫内で必要なスペースの割合に応じて各大学がローンで支払っている。なお土地は州から寄付を受けたものである。

共同書庫に移管する資料はWRLCが定めた方針に基づいて各大学が決定する。共同書庫内では資料は元の所蔵館に関わらず混配されるが、その資料の所有権は元の所蔵館にある。共同書庫内における資料の重複については、2008年以降、冊子体雑誌は書庫内に1冊、単行書は書庫内に2冊と制限されているが、先着順で1冊ないし2冊を保存するという決まりに過ぎず、最もよい状態のものが選ばれて保存されるわけではない。

共同書庫の運営費はコンソーシアムの運営費の一部として各大学が均等負担している。共同書庫へ移管する資料の移送費や利用者のリクエストによる出納資料の配送費など、共同書庫の利用に関連する費用は各大学がかかった分だけ負担する。

WRLCに関する最近のトピックとしては、国

家レベルの冊子体リポジトリネットワークへの積極的な寄与・協力を目標に掲げたことが挙げられる<sup>24)</sup>。2014年3月に加盟9大学の図書館長で構成される館長協議会へ共同コレクションのビジョンに関するレポートが提出され、その中で冊子体リポジトリネットワークへの参加の足がかりとなるよう、WRLCが何を保存しているかというデータを整備しそのデータをWorldCatなどの検索ツールに登録することや、冊子体保存に関する新たなパートナーを模索すること、さらにはデジタル資料保存を行うコンソーシアムとの提携を検討することなどが提案されている。

### 【事例】リポジトリ型——FCLD<sup>25)</sup>

マサチューセッツ州アマーストにあるFCLD (Five College Library Depository) は、同地域の5大学 (アマースト大学、ハンプシャー大学、マウントホリヨーク大学、スミス大学、マサチューセッツ大学アマースト校) で構成されるFive College Consortiumの共同書庫である。もともと空軍の地下基地であった建物をアマースト大学が倉庫として利用するため購入し、2001年からその一部をコンソーシアムの共同書庫として活用している。共同書庫内の資料はハーバードモデル同様サイズごとにトレイに入れ、そのトレイを書架に収納しているが、建物の天井高の制限のため、ハーバードモデルのような背の高い固定式書架ではなく電動集密書架が導入されている。共同書庫として活用している部分には55万冊が所蔵できる。

共同書庫に移管する資料は各大学が自由に決めることができるが、一般的に利用頻度の低い図書・雑誌、電子媒体が利用可能な製本雑誌などが選ばれることが多い。また、劣化資料は移管できない。

共同書庫内の資料は重複しないよう調整が行われ、5大学の共有財産として扱われている。しかし重複調整は最初から行われていたわけではない。図書館の蔵書数が大学評価や予算配分に影響するため、コンソーシアム内で唯一の州立大学であるマサチューセッツ大学は、重複調整を行うことによって自身の蔵書数が減ることに抵抗があっ

た。そのため当初他の4大学との重複調整は行わず、共同書庫に移管した資料の所有権を維持し続けていたが、北米研究図書館協会の蔵書統計の方法がアクセスできるものはすべて蔵書としてカウントできるよう変更されたことに伴い共同書庫内の資料を5大学それぞれが自分の蔵書としてカウントできるようになったことから蔵書数が減る心配がなくなり、重複調整を進めるようになった。

ただし州の規制のため、マサチューセッツ大学は資料の所有権を形式的に維持し続けている。

運営のための経費は、各大学の規模に比例した11ths方式 (ハンプシャー大学が1/11、アマースト大学、マウントホリヨーク大学、スミス大学がそれぞれ2/11、マサチューセッツ大学が4/11) でそれぞれ負担している。

## 2. 分散型

### 【事例】ASERL<sup>26)</sup>

ASERL (Association of Southeastern Research Libraries) は1956年に設立された、米国南東部の研究図書館によるコンソーシアムである。現在38大学が加盟しており、共同コレクション構築やリソースの共有など、さまざまな活動を展開している。

ASERLは2011年4月に共同雑誌保存プログラム協定 (ASERL Collaborative Journal Retention Program Agreement) を制定した<sup>27)</sup>。各参加機関は図書館内の書架や自身が所有する遠隔地書庫などにおいて雑誌を保存するが、その保存する雑誌について、巻号レベルでの所蔵状況、物理的コンディション、どのような書架に保存しているか、貸出できるかどうかなどの情報を公開することが求められている。この情報を網羅した保存タイトルリストは、ASERLのWebサイトで確認できる。他の参加機関はこのタイトルリストをもとに、自館の重複資料を廃棄するかどうか判断を行う。

保存する雑誌は各参加機関内において保存されるため、所有権はその機関にあり続ける。しかし何らかの事情でその雑誌を保存できなくなった場合は、ASERLに書面で通知し、別の参加機関にその雑誌の所有権を移譲する必要がある。

さらに2013年、ASERLは集中型シェアード

プリントの事例として紹介した WRLC と、冊子体雑誌の保存とアクセスについて協定を結んだ<sup>28)</sup>。これによって保存タイトルは 8,000 以上、冊数にして 25 万冊以上となり、北米で最大級の冊子体雑誌リポジトリが誕生した。

## 3

### 日本における冊子体資料の 共同管理の可能性

前述のとおり日本の大学図書館においても冊子体資料の保存スペースの問題は深刻であるが、共同管理の検討はまだ発展途上である。2013 年 8 月に発表された文部科学省科学技術・学術審議会学術分科会学術情報委員会による「学修環境充実のための学術情報基盤の整備について（審議まとめ）」では、適切なコンテンツ管理と空間の確保が課題のひとつとして挙げられ、学術資料をより効果的・効率的に保存し図書館の空間を有効活用することが推奨されており、その手法として自動化書庫や大学単独あるいは共同での遠隔地書庫の導入、大学内や複数大学間における蔵書の重複調整を行うシェアードプリントの導入などが紹介されている<sup>29)</sup>。

各大学に自動化書庫や単独書庫を導入することがスペース問題の有効な解決策となるのは明らかであるが、さらに経済的、効率的に冊子体資料を管理するためには共同書庫を考えたいものである。

では日本において冊子体資料の共同保存・管理を行うには、どのような課題があるのだろうか。

#### 1. 費用について

##### ●建設費

共同書庫を利用する集中型のシェアードプリントを活用する場合、その建設費や土地代を参加大学間でどのように分担して負担するか、検討する必要がある。完全に等分するのか、大学の規模に応じて、あるいは書庫内の利用見込みスペースに応じて負担率を変えるのか、十分な協議が必要である。また、参加大学に国公私立の大学が混在する場合、予算要求は誰がどこに対してどのように行うのか、またその共同書庫はどの大学の所有になるのか、参加大学の設置母体ともそれぞれ調整

を行う必要がある。

##### ●運営費

事業が続く限り継続的に発生する運営費についても、誰がどのように負担するかよく検討しておく必要がある。集中型のシェアードプリントの場合には書庫の光熱費、資料の出納や施設管理のための人件費、資料配架のための消耗品費、参加大学との間の資料配送費など、分散型のシェアードプリントの場合には保存するタイトルに関する調査・情報公開のためのコスト、保存するタイトルの保存・維持費などが想定される。

#### 2. 資料の重複調整および所有権について

集中型のシェアードプリントの場合、書庫内における資料の重複を認めるのかどうか、また書庫内の資料の所有権は誰にあるのかについての方針、すなわち、重複調整をせず資料の所有権も預けた大学に残すデポジトリ型として運用するのか、それとも重複調整を行い資料の所有権を参加大学全体に移譲するリポジトリ型として運用するのかという判断は非常に重要である。参加大学間の調整にかかる労力はデポジトリ型の運用を選ぶほうが少ないであろうが、書庫内で資料が重複する分保存スペースは多く必要になり、リポジトリ型より早く書庫が満杯になることが予想される。また、デポジトリ型からリポジトリ型への移行は容易ではない。ペイン (Payne, Lizanne) はデポジトリ型からリポジトリ型への移行の際の問題として、次の 4 点を挙げている<sup>30)</sup>。

- デポジトリ型の場合は各個別機関によるその場しのぎの預け入れが行われていた可能性があるため、共同書庫に移管する資料について参加機関で調整した選定基準の策定が必要である。
- 雑誌について、各個別機関が預けている巻号が必ずしも完全なものではないため、参加機関間で所蔵を比較し統合することが必要であるが、コストがかかる。
- 所蔵されている資料の状態が最もよいものを保存することが望ましいが、個々の資料についてさかのぼって状態の評価を行うことはコ

ストがかかる。

- 書庫内資料のリクエストにどのように対応するか、再検討が必要である。例えば製本雑誌について、冊子体の保存のため、また他の利用者からの同時リクエストに備えるため、電子的配送のみにするのか、あるいは物理的配送も行うのか（その場合紛失や破損のリスクも考慮しなければならない）など。

以上をふまえると、当初からリポジトリ型の運用を目指すことが望ましいように思われるが、重複調整の実現のために鍵となる資料の所有権の移譲は容易ではない。図書館の蔵書数やその資産価値は大学評価や大学ランキングに影響を与えることが多く、所有権の移譲によってこれらが目減りすることについて懸念されるためである。前述の通り北米ではこうしたハードルを蔵書統計のカウンターの仕方の変更によって乗り越えている。アクセスできるものはすべて蔵書とみなすという考え方の転換である。日本においてもこの点が解決できるかどうか非常に重要であろう。

分散型のシェアードプリントにおいても所有権について検討すべき場合がある。例えば特定のタイトルについて、欠号やより状態のよい巻号を他館から保存責任館に移す場合などである。この場合、所有権の移譲を行うのか行わないのか、協定等であらかじめ定めておく必要がある。

### 3. 運営について

#### ● ポリシーやルールの確立

シェアードプリントは複数の機関が関わる事業となるため、その運営に関して明文化されたポリシーやルールが必要である。レイリー (Reilly, Jr., Bernard F.) は、資料の共同管理は大きな投資を伴うため、これらのコストや利益について示した法的文書が必要であり、このような文書があることでリスクが分散されると指摘している<sup>31)</sup>。

冊子体資料の共同管理に取り組んでいる北米の多くの機関・コンソーシアムは、ポリシーやルール、協定書などを Web サイトで公開している。また OCLC は、冊子体資料の共同管理に関するさまざまなポリシーを調査し、その核となる要素について検討したレポートを発表している<sup>32)</sup>。

表3 施設が利用者に対して行っているサービス (回答数 = 62)

資料の現物貸借	62 (100%)
複写物の配送	36 (58%)
参考調査 (書誌情報の調査、正しい巻号の検索など)	36 (58%)
資料の撮影	8 (13%)
その他 (論文のスキャン・電子配送、来館利用など)	24 (39%)

出典：参考文献 33), Q9 (p.31) をもとに筆者が作成。

表4 施設内の資料に対するリクエスト方法 (回答数 = 62)

	現物貸借	文献複写
OPAC から	52	28
OPAC 以外の Web フォームから	34	24
直接	38	24
E メール	32	15
電話	30	12
その他 (ILL, FAX, 郵便など)	15	14

出典：参考文献 33), Q12 (p.35) をもとに筆者が作成。

表5 スタッフによる利用者のリクエスト処理頻度

		現物貸借	文献複写
平日 回答数 61	1日1回	16	13
	1日2回	21	12
	随時	12	10
	その他	11	4
週末 回答数 60	処理しない	42	32
	1日1回	6	3
	1日2回	1	-
	随時	4	1
	その他	7	3

出典：参考文献 33), Q13 (p.35-36) をもとに筆者が作成。

これらを参考に参加大学間でよく検討してポリシーを明文化し、それを拠り所しておくことが共同管理の成功には必要不可欠であろう。

#### ● 配送体制

集中型のシェアードプリントの場合は書庫内の資料について、分散型のシェアードプリントの場合は他館が保存している資料について、利用者か

表6 リクエストから資料が利用できるようになるまでの時間

時間 (回答数=33)	現物 貸借	文献 複写	日数 (回答数=24)	現物 貸借	文献 複写
2	1	1	.5	1	1
4	3	3	1	12	8
8	1	-	2	4	4
12	4	-	3	3	2
< 24	7	4	4	1	-
24	14	9			
48	3	2			
平均値	21.21	21.79	平均値	1.60	1.50
中間値	24.00	24.00	中間値	1.00	1.00

出典：参考文献33)、Q14 (p.37) をもとに筆者が作成。

らのリクエストをどのように受け付けるか、リクエストからどのくらいの時間で届けられるか、電子的配送は行うのか、料金はどうするのかなど、利用者の手元に資料を届ける方法を検討しておく必要がある。これは冊子体資料の共同保存・管理に対して各参加大学の構成員から理解を得る上でも重要なポイントになるであろうと思われる。共同管理される資料へのアクセスが著しく不便になってしまうのであれば、自分たちの手元にとどめておきたいという声がかかることは容易に想像できる。

表3~6は2006年に北米研究図書館協会が遠隔地書庫施設について行った調査の、サービスに関する部分の結果である<sup>33)</sup>。これらは共同管理する資料の利用者サービスを検討する上でのひとつの基準として参考になろう。

#### 4. 既存図書館の将来構想について

冊子体資料の共同管理によって既存の図書館の書架スペースを節約できた場合、そのスペースをその後どのように活用し、さらにはどのような図書館にしていきたいのかという将来構想を描いておくことも重要であるように思われる。書架の狭隘化の解消は図書館にとって喫緊の課題であるが、その課題の解決にとどまらず、それによって生まれた余剰スペースをどのように図書館利用者や学内構成員にとって魅力的なスペースに生まれ

変わらせたいかというビジョンを具体的に示すことは、冊子体資料の共同管理に関する学内外の支援を得る上で大きなポイントになるのではないだろうか。

#### おわりに

2014年3月、お茶の水女子大学、千葉大学、横浜国立大学の三大学が、冊子体雑誌のバックファイルについて共同分散保存に着手すると発表した<sup>34)</sup>。また、東海北陸地区国立大学図書館協会では東海北陸地区大学間学術資源活用事業を立ち上げ、名古屋大学ほか数大学が中心となって集中型シェアードプリントの実現を目指している。電子資料の増加や学修環境としての図書館のあり方の見直しなど大学図書館を取り巻く大きな変革の中、今後も大学の学術情報基盤であり続けるため、図書館は伝統的に扱ってきた冊子体資料の保存・管理にどのように向き合うべきなのだろうか。そのひとつの方向性である共同管理へ向けて、第一歩が踏み出されたところである。

#### <参考文献>

- 1) 文部科学省. “平成25年度学術情報基盤実態調査 大学図書館編 13課題 2経費・設備面”. (オンライン), 入手先 <<http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/Xlsdl.do?sinfid=000023830680>>, (参照2014-09-29).
- 2) Payne, Lizanne. “Library storage facilities: state of the art”. Library Storage Facilities and the Future of Print Collections in North America. OCLC Programs and Research, 2007, p. 8. (オンライン), 入手先, <<http://www.oclc.org/programs/publications/reports/2007-01.pdf>>, (参照2014-09-30).
- 3) Courant, Paul N. et al. “On the Cost of Keeping a Book”. The Idea of Order: Transforming Research Collections for 21st Century Scholarship. Council on Library and Information Resources, 2010, p. 91. (オンライン), 入手先 <<http://www.clir.org/pubs/abstract/reports/pub147>>, (参照2014-09-30).
- 4) Payne 2007. op. cit. p. 14.
- 5) SAL1&2の他にSAL3, SAL off-campus Newarkと呼ばれる書庫があり、これらは遠隔地書庫である。  
“Stanford Auxiliary Library 1&2 (SAL1&2)”. Stanford University Libraries. (オンライン), 入手先 <<http://library.stanford.edu/libraries/sal/about/>>, (参照2014-09-29).  
“Stanford Auxiliary Library 3 (SAL3)”. Stanford University Libraries. (オンライン), 入手先 <



- stanford.edu/libraries/sal3/about), (参照 2014-09-29).
- “Stanford Auxiliary Library, off-campus Newark”. Stanford University Libraries. (オンライン), 入手先 <<http://library.stanford.edu/libraries/newark/about>>, (参照 2014-09-29).
- 6) “Paging from Stanford Auxiliary Libraries”. Stanford University Libraries. (オンライン), 入手先 <<http://library.stanford.edu/using/borrow-renew-return/paging-stanford-auxiliary-libraries>>, (参照 2014-09-29).
- 7) “The Library Annex”. University of Kansas Libraries. (オンライン), 入手先 <<http://lib.ku.edu/library-annex>>, (参照 2014-09-30).
- 8) 村西明日香, “北米における冊子体資料の共同管理の動向”. カレントアウェアネス, 319, CA1819, 2014, p. 26-31. (オンライン), 入手先 <<http://current.ndl.go.jp/ca1819>>, (参照 2014-09-29).
- 9) “The Library Annex at the University of Kansas”. University of Kansas Libraries. (オンライン), 入手先 <<http://www.youtube.com/watch?v=P30KkRhRQGg>>, (参照 2014-09-30).
- 10) “Library Annex Concept Review”. University of Kansas Libraries. (オンライン), 入手先 <<http://lib.ku.edu/sites/lib.drupal.ku.edu/files/docs/pdfs/AnnexPresentationMarch10.pdf>>, (参照 2014-09-30).
- 11) “Automated Storage and Retrieval System (ASRS)”. CSU Northridge Oviatt Library. (オンライン), 入手先 <<http://library.csun.edu/About/ASRS>>, (参照 2014-09-30).
- 12) Payne 2007. *op. cit.* p.13-15.
- 13) “Building and Floor Maps”. CSU Northridge Oviatt Library. (オンライン), 入手先 <<http://library.csun.edu/About/BuildingInformation>>, (参照 2014-09-30).
- 14) Reilly, Jr., Bernard F. “U.S. Regional Repositories : General Characteristics and Features”. *Developing Print Repositories : Models for Shared Preservation and Access*. Council on Library and Information Resources, 2003, p. 5-12. (オンライン), 入手先 <<http://www.clir.org/pubs/reports/pub117>>, (参照 2014-09-30).
- 15) “Library Service Center”. Rice University Fondren Library. (オンライン), 入手先 <[http://library.rice.edu/about/departments/library-service-center/library\\_service\\_center](http://library.rice.edu/about/departments/library-service-center/library_service_center)>, (参照 2014-09-30).
- 16) “Library Service Center History”. Rice University Fondren Library. (オンライン), 入手先 <<http://library.rice.edu/about/departments/library-service-center/history>>, (参照 2014-09-30).
- 17) “Library Service Center Fact Sheet”. Rice University Fondren Library. (オンライン), 入手先 <<http://library.rice.edu/about/departments/library-service-center/fact-sheet>>, (参照 2014-09-30).
- 18) “Selection Guidelines for Off-site Shelving”. Rice University Fondren Library. (オンライン), 入手先 <<http://library.rice.edu/collections/about-fondrens-collections/collection-development/collection-maintenance/guidelines-off-site-shelving>>, (参照 2014-09-30).
- 19) Reilly. *op. cit.*
- 20) Payne, Lianne. Depositories and repositories : changing models of library storage in the USA. *Library Management*. 26 (1/2), 2005, p. 10-17.
- 21) Payne 2007. *op. cit.* p. 19.
- 22) Johnson, Brenda L. CIC 共同保存書庫の展開とインディアナ大学の役割. 市古みどり訳, 大学図書館研究. 95, 2012, p. 16-20.
- 23) 村西. 前掲.
- 24) “Shared Collection Vision for the Washington Research Libraries Consortium”. Shared Collection Vision Task Force. (オンライン), 入手先 <[https://drive.google.com/file/d/0B6H9N0\\_0aU-oYVdFTUVLYkVJcFN0dl9sX2ZaTVB-iQm5HSktJ/edit?usp=sharing](https://drive.google.com/file/d/0B6H9N0_0aU-oYVdFTUVLYkVJcFN0dl9sX2ZaTVB-iQm5HSktJ/edit?usp=sharing)>, (参照 2014-09-30).
- 25) 村西. 前掲.
- 26) 村西. 前掲.
- 27) “ASERL Collaborative Journal Retention Program Agreement”. Association of Southeastern Research Libraries. (オンライン), 入手先 <[http://www.aserl.org/wp-content/uploads/2014/03/ASERL\\_Journal\\_Retention\\_Agreement\\_rev\\_2014\\_03\\_18.pdf](http://www.aserl.org/wp-content/uploads/2014/03/ASERL_Journal_Retention_Agreement_rev_2014_03_18.pdf)>, (参照 2014-09-30).
- 28) “Cooperative Journal Retention : Scholars Trust”. Association of Southeastern Research Libraries. (オンライン), 入手先 <<http://www.aserl.org/programs/j-retain/>>, (参照 2014-09-30).
- 29) “「学修環境充実のための学術情報基盤の整備について (審議まとめ)」について”. 文部科学省. (オンライン), 入手先 <[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/houdou/25/08/1338778.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/25/08/1338778.htm)>, (参照 2014-09-30).
- 30) Payne 2005. *op. cit.*
- 31) Reilly, Jr., Bernard F. “Factors that Promote Cooperative Collection Management”. *Developing Print Repositories : Models for Shared Preservation and Access*. Council on Library and Information Resources, 2003, p. 34-39. (オンライン), 入手先 <<http://www.clir.org/pubs/reports/pub117>>, (参照 2014-09-30).
- 32) Malpas, Constance. *Shared Print Policy Review Report*. OCLC Research, 2009, 23p. (オンライン), 入手先 <<http://www.oclc.org/content/dam/research/publications/library/2009/2009-03.pdf>>, (参照 2014-09-30).
- 33) Deardorff, Thomas C. et al. “Remote Shelving Facility Services”. *SPEC Kit 295 : Remote Shelving Services*. Association of Research Libraries, 2006, p. 31-39.
- 34) “お茶の水女子大学, 千葉大学, 横浜国立大学の三学長が図書館連携の申合せ : わが国初めての共同分散保存 (シェアード・プリント) に着手”. お茶の水女子大学. (オンライン), 入手先 <<http://www.ocha.ac.jp/news/h260404.html>>, (参照 2014-09-30).

(2014.10.2 受理)